



学校の中心は「学習」を通して「学力」を身に付けることです。

しかし、教科等の学習以外にも集団生活や学校行事を通して、たくさん
の力を身に付けながら成長していきます。その一つに、先日6年生の
修学旅行が実施されました。



帰ってきました 6年生

一泊二日の修学旅行（阿蘇方面）から無事に帰ってきました。

出発前に、有意義な修学旅行にするために次の3つのお願いをしました。

①プラスの言葉を使う ②心を動かす ③少しの我慢をする ということです。

詳しい内容は書きませんが、旅行中この3つを頑張る6年生の姿が多く見られました。

様々な活動を通して、教師から教わり、友との生活から学び、出会った人や自然から学ぶ
ことがたくさんありました。その結果、多くのことを手に入れ、それぞれに成長を感じられ
る二日間でした。

解散式では、簡単な振り返り（自己採点）を行い、満点に足りなかったところは何なのか、
原因を考え、それを今後の生活の中で意識して行くことが大切だと伝えました。

成長も課題もそれぞれに違っていると思います。一人一人が考えることが大切になってき
ます。思い出はしっかりと胸の中に、学んだことや身に付けたことは、やらなければ意味が
ないことを伝えました。また、これだけ思い出と学びが多い修学旅行になったのは、多くの
方の協力と、みんなのことを心配し応援してくれた家族のお陰であることに感謝するよう
にも話しました。

これからの成長が楽しみになった二日間でした。ちなみに6年生は、息つく暇もなく「小
体会」に向けて練習がスタートしました。

言葉を整えよう



私は常日頃「言葉を整えたい」と考えています。これは子供だけでなく、大人自身も同じ
ことだと思います。

昔から「言葉には不思議な力が宿る」と考えられています。このことについては、信じる
信じないに関わらず、結婚式の時や受験の前には不吉なことを連想させる言葉を控えます。
これは、言葉が相手の頭に悪いイメージを植え付けないように配慮しているからです。

ある研究によると、人は後向きな言葉を聞くと、脳のやる気スイッチがオフになってしま
うといひます。だから、救急医療の現場では「仕方がない」「無理」といった後ろ向きな言葉
を発することを禁止する病院もあります。急患を助けるために、無理をしてでも全力を尽く
さなければならない現場で、誰かが「仕方がない」「無理だ」などの言葉を発すると、その現
場スタッフのやる気スイッチがオフになってしまい、助けられたはずの患者も助からないか
らだそうです。

さらに、「言葉は前に飛ぶものではなく、上に飛びます。」そうすると、どんなことが起こ
るかということ・・・「ばか」「なにやってんの！」「あっちいって」などのチクチク言葉を上に
飛ばすと、全部自分の周りに落ちてきます。すると自分の周りは悲しい言葉や嫌な言葉で取
り囲まれてしまいます。でも、「ありがとう。」「一緒にやろう。」「こっちおいでよ。」などの
美しく温かい言葉を上に飛ばすと、自分の周りは美しく温かい言葉で取り囲まれます。

どんな言葉で取り囲まれた人生を送りたいか？それは自身で選ぶことができます。た
とえキツイ時にも、前向きな言葉を意識的に声に出し、友を励ますことができるような子供
たちに育てて欲しいと思っています。

後ひと踏ん張りというときは、学校生活の中ではよくあります。そんなとき、自分の言葉
が自分自身やクラスメイトに対して、良くも悪くも影響を与えるという自覚をもって欲しい
です。特に学校などの集団生活の中では、一人一人が発する言葉が、その集団内のやる気や
雰囲気に関わる重要な要素になるのです。これが私が「言葉を整えたい」と考える理由です。